

ANNUAL REPORT 2024

ANNUAL REPORT 2024



公益財団法人
東近江三方よし基金

〒527-0012
滋賀県東近江市八日市本町 9-19
TEL 080-2541-9990
MAIL 3poyoshi.kikin@gmail.com



3poyoshi.com

発行
公益財団法人 東近江三方よし基金
制作 NPO法人 ナイマゼ
デザイン 高橋 潤己 (QUATTRO design)



東近江三方よし基金
2024 年度年次報告書

ANNUAL REPORT 2024

東近江三方よし基金
2024 年度年次報告書

CONTENTS

東近江三方よし基金について 02

事業報告 01

東近江三方よし基金 成果報告会
～地域の想いに火を灯す～ の開催 03

事業報告 02

公益活動助成事業 05

事業報告 03

社会的インパクト投資促進事業 06

事業報告 04

東近江三方よし基金への寄付 08
2024 年度決算報告 09

東近江三方よし基金は、 持続可能な東近江エリアの 実現へ向けた市民活動を支援する コミュニティ財団です

PURPOSE

地域資源を活かした
地域課題解決を目指す主体・活動を
市民が支える仕組みを構築することを通じ
循環共生型の社会づくりに資すること

公益財団法人東近江三方よし基金は、持続可能な東近江エリアを実現するために、必要な資金の調達や伴走支援等を担っていく目的で設立されました。

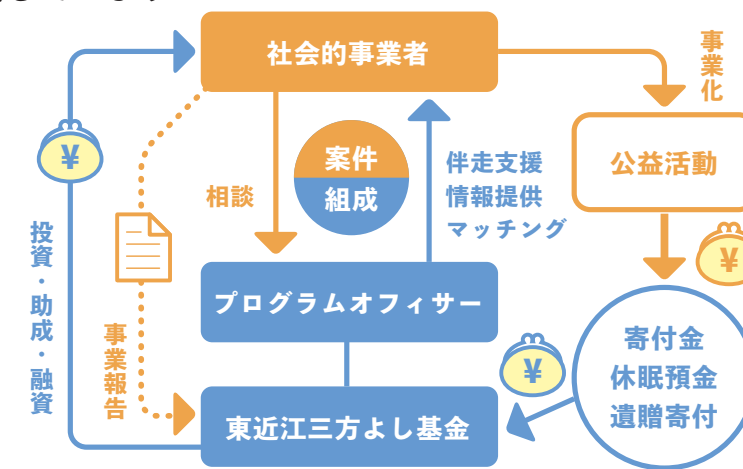
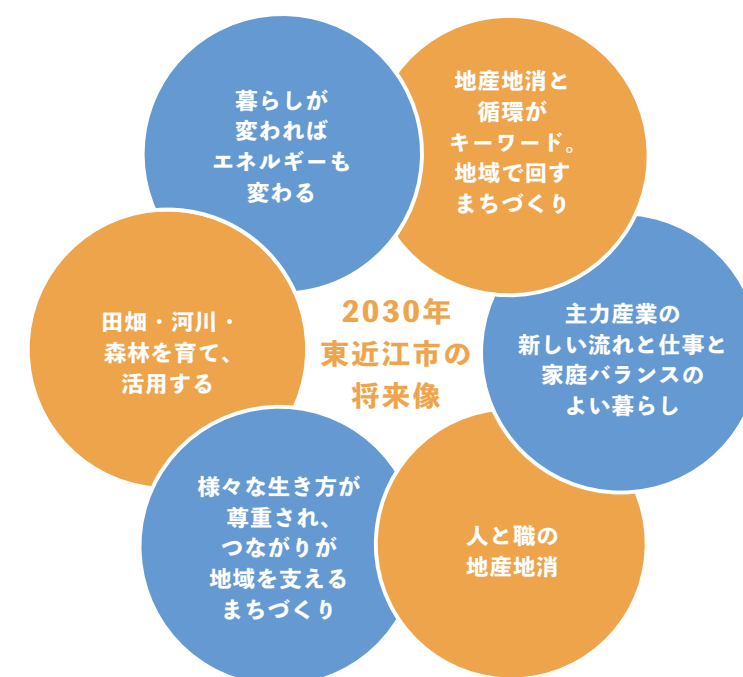
支援対象の指標としているのは、2009年2月から2011年3月にかけて開催された「ひがしおうみ環境円卓会議」で描かれた「2030年東近江市の将来像」です。東近江市の特色ある自然資本・人工資本・人的資本・社会関係資本といった地域資源を活かしながら地域の課題解決を目指す主体・活動に対し、市民が支える仕組みづくりを通じて「未来資本」を創出し、東近江市地域の活性化および循環共生型の社会づくりに資することを目的としています。

ACTIVITY

地域資源を活用した
地域課題解決および
地域活性化を推進するための
コミュニティビジネスを支援しています

東近江市には、空き店舗のリノベーション、森林資源を活用した商品開発、働きづらさを抱える若者の就労支援など、地域の課題に気づき、行動し始めている人たちが多くいます。

市民がチャレンジしやすくなり、新たな地域課題に気づき行動する人が増え、自分たちのまちがより住みやすくなるよう、東近江三方よし基金では地域課題の解決と地域資源を活用した地域活性化を推進するためのコミュニティビジネスを支援しています。この取り組みにより、「温かいお金」が地域内で循環する仕組みづくりにも力を入れています。



東近江三方よし基金 成果報告会 ～地域の想いに火を灯す～ の開催

東近江三方よし基金は、地域課題の解決や地域資源の持続的な活用を目指して活動してきました。これまでの8年間の取り組みを共有し、今後の地域の在り方を考える成果報告会を開催しました。

開催日時：2024年11月19日（火） 13:30～16:40

開催場所：湖東信用金庫5階コミュニティホール



PROGRAM

- ① 開会の挨拶
- ② 第1部 活動報告 9 団体・バスセッション
- ③ 第2部 東近江三方よし基金の資金循環の仕組みについて／パネルディスカッション

第1部 活動報告 9 団体・バスセッション

これまで助成を受けた9団体が、それぞれ10分で活動報告を行い、地域課題への取り組みと成果を共有しました。本活動報告会では、同じ地域内で様々なテーマで活動している団体の活動内容や地域課題を共有し、共通理解をする場となりました。

01 活動報告

一般社団法人ぐるり | 子育て・居場所：地域の関わりを広げる実践

認定 NPO 法人まちづくりネット東近江 | 中間支援・多文化共生：学習支援と交流の場づくり

お産 & 子育てを支える会 | 産前産後：助産・ケアの体制づくりと継続支援

NPO 法人喜里 | 福祉・地域：暮らしの課題に向き合う活動の展開

東近江 FC レジリエンス | スポーツ・インクルーシブ：多様な子どもの参加を支える

おてんとさん(八日市おかえり食堂) | 食・居場所：子ども食堂と支え合いの拠点づくり

東近江に再びイヌワシを呼び戻す PJ 協議会 | 自然環境：森の象徴から地域の未来を考える保全活動

愛知川漁業協同組合 | 川・水産：ビワマス遡上を支える“命のリレー”の保全

株式会社 BASYO | 就労・農：働く場づくりを通じた支援と地域接続

02 バスセッション

会場に来てくださっていた参加者のみなさまと小さいグループに分かれて意見交換・気づきの共有を行いました。

第2部 東近江三方よし基金の資金循環の仕組みについて／ パネルディスカッション

第2部では、東近江三方よし基金が取り組んできた活動を紹介したうえで、地域の未来に向けて、地域で「応援の循環」をどのように育てていくかを議論しました。

＜コーディネーター＞

深尾 昌峰 氏 （龍谷大学副学長 / 政策学部教授）

＜パネリスト＞

山口 美知子 氏 （東近江三方よし基金理事 / 事務局長）

矢島 之貴 氏 （湖東信用金庫理事長）

青山 孝司 氏 （東近江市商工会理事）

野々村 光子 氏 （一般社団法人 TeamNorishiro 理事）

大庭 美香 氏 （一般社団法人ぐるり共同代表）



HIGHLIGHT

パネルディスカッション ハイライト

「それぞれの立場から、三方よし基金はどう見えていますか？」

青山 孝司 氏

地域で商売をしている側ほど、地域課題に気づけていないことが多いんです。課題と事業者がつながっていない。基金は、その“接点”をつくっている存在だと思うし、地域の課題についてはみんなとも共有して考えていきたいです。

野々村 光子 氏

制度の枠だと『それはやったらあかん』と怒られることが多い。でも現場では、やらないといけない“大事なこと”がある。基金はその大事なことの背中を押してくれる存在です。

“これからの野望”と、基金に期待することは？

大庭 美香 氏

“隙間で続ける”こと。社会課題と呼ばれているものを私たちの言葉で翻訳し、企画や場の力で面白くひらいて、隙間で居続けたい。

矢島 之貴 氏

基金が長く続くことが大事です。『地域でお金を回す』取り組みを、金融の側からも連携して支え続けたい。

山口 美知子 氏

次の段階として、自然資本をベースに、地域の活動を丸ごと応援するファンドを形にしたい。また、企業とソーシャルセクターの連携を進め、応援の循環を厚くしていきたいです。

まとめ

深尾 昌峰 氏

仕組みがあっても、うまく機能しないまちは多い。だから大事なのは、地域を“自分ごと”として捉え、オーナーシップを持てるかどうかです。そのためには、立場の違う人たちがそれぞれ力を寄せ合い、『つながっている』という手応えを実感できる関係性が必要です。三方よし基金は、その営みの“パーツ”の一部を担っている。応援を見える形にして、人と人、活動と支える側をつなぎ、次の一歩へ循環させていく。

“できるはずがない”と言われたことを形にしてきたのが、この地域の実践です。今日は、そのことが確かめられた時間だったと思います。

公益活動助成事業

2024年度、当基金が支援する分野に対して、助成事業を実施しました。

当基金は、助成対象の公益活動の内容や主旨に沿って、ヒアリング・伴走しながら、活動にあった助成を提案し、申請いただいています。

2024年度は、東近江の森里川湖と人をつなぐ あかね基金助成事業・子ども・若者の支援に関する活動助成金・休眠預金活用事業を実施しました。



1 東近江の森と人をつなぐ あかね基金助成事業

東近江三方よし基金は、森林の保全や資源の活用、山村文化の継承などを実現するためにいただいた寄付をきっかけに、2018年に「東近江の森と人をつなぐあかね基金」を創設。あかね基金の趣旨に賛同いただいた企業・団体の皆さまのご寄付・個人、東近江市が実施したふるさと納税からの拠出金により助成事業を実施しています。

＜2023年度寄付活用公募分＞

2023年度寄付活用公募事業については、下記の通り2団体を採択し助成金の8割を支援しました。

- 公募期間：2024年1月30日～2024年3月15日 ●選考会：2024年4月3日
- 対象団体：①雪野山の森・里山クラブ・「あるく」から広がる里山・山村・奥山つながりプロジェクト
②平田地区まちづくり協議会・雪野山の里山資源を活用した新たな人と地域の交流事業
③東近江に再びイヌワシを呼び戻すプロジェクト協議会 東近江に再びイヌワシを呼び戻すプロジェクト

2 子ども・若者の支援に関する活動助成金

「分野指定寄付プログラム」[※]の「子ども・若者を支える」への寄付を活用し、6団体に伴走支援を行いました。

※東近江三方よし基金では、関心のあるテーマを選んで寄付していただける「分野指定寄付プログラム」を実施しています。

- 公募期間：2024年8月10日～2024年11月1日 ●選考会：2024年12月22日
- 対象団体：①日本語学習会なかよし：外国籍児童への日本語教室の開催
②おてんとさん：障がい児・者親子のための子ども食堂
③東近江子どもサポーターズネットワーク 三々五々：「子どもに関する活動」をサポートし合う横並びのネットワーク構築
④共同助産所 お産子の家：経済的理由で産後ケア利用困難者へのサービス提供及び寄り添い
⑤えん to えん：活動者同士のつながりとノリシロが広がる場づくり
⑥こどもの居場所 ひがえど：異文化交流ができるこども食堂をつくる
- 事業期間：2024年から、最長2年

3 休眠預金活用

HUNコンソーシアム(南砺幸せ未来基金、うんなんコミュニティ財団とのコンソーシアム)は、社会的困難者やその家族を取り巻く社会課題の解決を図るため、地域の様々な関係者が総働で暮らしと地域づくりの視点から、行政制度の隙間を最小限にするローカルアクションを実現する実行団体の事後評価等の伴走支援を行いました。

＜2021年度 草の根活動支援事業＞

- 対象団体：①NPO法人喜里：難病を抱える方とその家族を支える活動
②東近江 FCレジリエンス：障がいのある子どもたちにスポーツできる環境を整える
③一般社団法人ぐるり：子どもを軸に多様な価値観と出会う公共空間の整備と活用
④お産&子育てを支える会：産み方・生き方を支える活動を広めよう！
⑤NPO法人まちづくりネット東近江：多様な人や文化、想いがつながるまちづくり
- 採択総額：62,940,000円(評価関連経費含む)
- 実施期間：2022年4月～2025年2月
- HUNコンソーシアム成果報告会：2025年3月24日 大阪市立総合生涯学習センター

社会的インパクト投資促進事業

1 東近江市版SIB事業

当基金と東近江市、プラスソーシャルインベストメント株式会社の三者協定に基づき、社会的投資と行政補助金(コミュニティビジネススタートアップ支援事業)の改革を組み合わせた東近江市版 SIBを実施しました。

ソーシャルインパクトボンド(SIB)とは、社会的インパクト投資の仕組みの一つで、行政や民間事業者及び資金提供者等が連携して、社会問題の解決を目指す成果志向の取組です。

地域課題をビジネスの手法で解決する取組として1団体を採択し、東近江市版 SIBにより事業実施した結果、成果目標を達成したと認め出資者に償還しました。

- 選考会：2024年6月26日 ●評価委員会：2025年3月7日 ●出資募集額：700,000円 ×1団体＝700,000円

実行団体 JYUYON 14 ACADEMY

＜テーマ＞

インクルーシブで誰もが自分らしさを追求できる場所を

近年のスポーツ環境は専門性を追求するクラブが多く、スポーツすることに対するハードルが高くなっています。インクルーシブとは、誰もが排除されず支え合える社会のことです。JYUYON 14 ACADEMYでは、多種目を扱い、体を動かす喜びを重視するものから、競技性の高いものまで多層的なアプローチを提供することで、誰もが自分らしさを追求できる「総合型地域スポーツクラブ」を目指します。



ANNUAL REPORT 2024

東近江三方よし基金
2024年度年次報告書

支えてくださった企業・団体のみなさま

山崎動物病院 / 宇佐美造林株式会社

寄付累計(2025.3.31現在) **19,357,750円** ※不動産除く
(2024年度寄付額 1,039,461円)

東近江市と連携し、ふるさと納税の仕組みを活用した東近江の森里川湖と人をつなぐあかね基金の寄付募金を実施しました。

募集期間 2024年12月～2025年2月 | 寄付金額 **310,000円**

この他にも、多くの皆様に支えられておりますこと、関係者一同心よりお礼申し上げます。

東近江三方よし基金では、企業・個人のみなさまからの
寄付をお受けしています

1 テーマを選んで寄付する

関心のあるテーマを選んで寄付していただける「分野指定寄付プログラム」を実施しています。
このご寄付はそれぞれの項目に沿って、事業がうまれたときにまとめて使わせていただきます。

暮らしを支える／地域の食と農を支える／森里川湖のつながり・保全
子ども・若者を支える／生業・起業・ものづくりを支える
再生可能エネルギーを支える／基金を支える

2 寄付で冠基金を設置する

寄付者の意向を反映させたオリジナルの助成金プログラムを作ることができます。
また、「冠基金」としてご寄付いただいた場合、その使い方について提案したりご相談もお受けしています。

3 事業を選んで寄付する

寄付を必要とする事業が発生した際に、その事業に対して寄付をいただくプログラムです。

4 東近江版 SIB事業に投資する

東近江市版 SIB事業は、国や市の行政、公益財団法人東近江三方よし基金、湖東信用金庫及びプラスソーシャルインベストメント株式会社の協定のもと、地域課題の解決にむけて、社会的投資と行政補助金改革を組合せた事業を実施するものです。

東近江市版 SIB事業に関する情報はエントライ HP(en-try.jp) をご覧ください。

寄付をお考えの方は、東近江三方よし基金 HPをご確認ください。

3poyoshi.com/page-donation



2024年度 決算報告

正味財産増減計算書

2024年4月1日から2025年3月31日まで

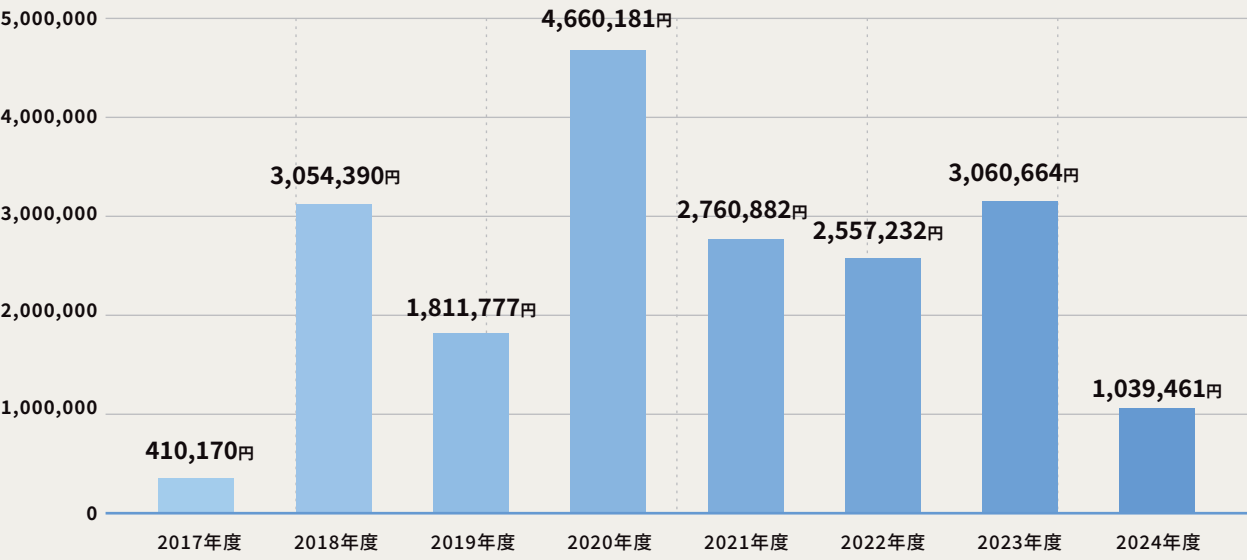
(単位: 円)

科目		当年度	前年度	増減
I 一般正味財産増減の部	1 経常増減の部			
	1 経常収益	27,629,159	29,888,100	-2,258,941
	基本財産運用益	60	6	54
	受取寄付金	1,951,183	2,446,127	-494,944
	受取補助金等	14,991,438	17,555,281	-2,563,843
	事業収益	10,679,250	9,886,250	793,000
	雑収益	7228	436	6,792
	2 経常費用	28,220,627	25,946,110	2,274,517
	事業費	27,819,350	25,713,225	2,106,125
	管理費	401,277	232,885	168,392
	当期経常増減額	-591,468	3,941,990	-4,533,458
	2 経常外増減の部			
	1 経常外収益	0	0	0
	2 経常外費用	0	0	0
	当期経常外増減額	0	0	0
II 指定正味財産増減の部	当期一般正味財産増減額	-591,468	3,941,990	-4,533,458
	一般正味財産期首残高	9,682,107	5,740,117	3,941,990
	一般正味財産期末残高	9,090,639	9,682,107	-591,468
	受取補助金等	70,461,751	31,911,950	38,549,801
	受取寄付金	-911,722	2,922,838	-3,834,560
	一般正味財産への振替額	0	-33,841,800	33,841,800
	当期指定正味財産増減額	69,550,029	992,988	68,557,041
III 正味財産期末残高	指定正味財産期首残高	17,515,145	16,522,157	992,988
	指定正味財産期末残高	87,065,174	17,515,145	69,550,029
	正味財産期末残高	96,155,813	27,197,252	68,958,561

寄付総額の推移

寄付総額(2024年3月31日 現在)※不動産除く 19,357,750円

(単位: 円)



貸借対照表

2025年3月31日 現在

(単位: 円)

資産の部		負債の部	
1 流動資産		1 流動負債	
現金預金	583,776	未払金	2,840,798
未収金	3,759,500	預り金	131,833
流動資産合計	4,343,276	未払消費税等	481,100
2 固定資産		流動負債合計	3,453,731
基本財産合計	3,001,000	負債合計	3,453,731
特定資産合計	91,709,363	正味財産の部	
その他固定資産合計	555,905	1 指定正味財産	87,065,174
固定資産合計	95,266,268	2 一般正味財産	9,090,639
資産合計	99,609,544	正味財産合計	96,155,813
		負債及び正味財産合計	99,609,544